

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年6～7月に、5年生と中学2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における保健体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

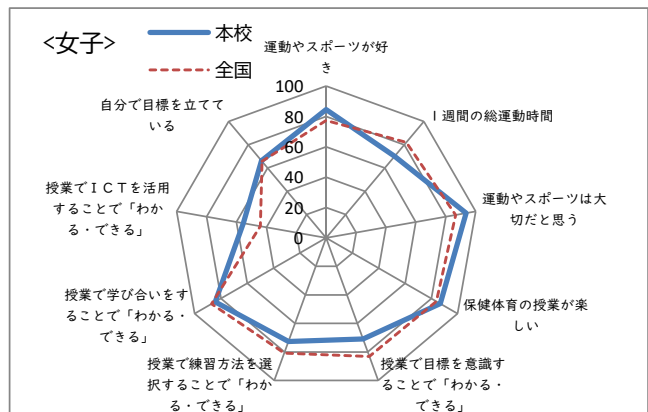
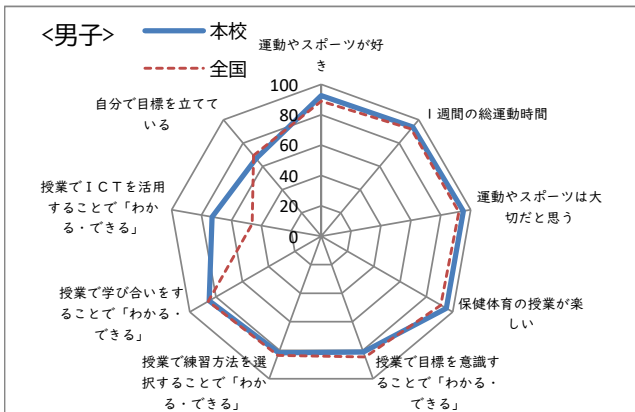
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
本市	29.89	26.05	45.62	51.43	411.48	79.38	7.98	200.49	20.64	42.89
本校全国平均以上の種目	○		○	○	○		○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42
本市	23.48	21.58	47.11	45.64	303.38	50.85	8.95	169.09	12.41	48.27
本校全国平均以上の種目	○									

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

本校の2年生は、「運動やスポーツが好き」「運動やスポーツは大切だと思う」「保健体育の授業が楽しい」と答えた生徒が多く、男女ともに全国平均を上回っていた。しかし、目標に対する意識や体力・運動能力の向上に対する自分なりの目標設定という点において課題が出ていた。目標の設定方法や目標に対する意識づけを工夫するとともに、ICTを効果的に活用し、自己の課題を可視化したり、運動のポイントを確認したりするなど、「わかる・できる」を生徒がより体感しやすい方法を取り入れていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で）

生徒が見通しをもって授業に臨める環境整備や学びの状況に応じて確認ができる資料提供を継続して行っていく。体育の授業のはじめに、種目に応じた補強運動や予備の運動を全学級において実施する。生徒に「できる・わかる」楽しさを味わわせるために、友達同士の学び合いやICTを活用した指導の工夫・改善を行うなど、効果的な指導法について保健体育科職員で共通理解を図る。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

保健体育の授業はもちろん、総合的な学習の時間等を利用したサッカーW杯についての学習を通して、運動やスポーツへの興味関心を高める。また、健康と運動との密接な関わりについての指導を継続的に行い、運動習慣の形成を図っていく。また、新体力テストの個人結果を全家庭に配付して家庭の運動への関心を高める。